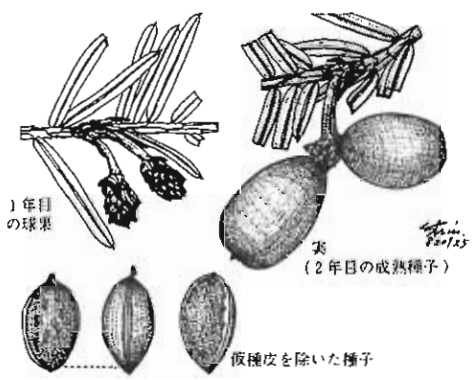
樹木だより

ハイイヌガヤの種子

岩見沢市の大正池の周辺の広葉樹林で，高速道路の工事予定線の森林植生を調査した。ミズナラ，シナノキ，イタヤカエデなどが上木であり，林床はクマイザサであるが，ハイイヌガヤもかなり多くみられた。

雌雄異株で，伏条更新するから，種子のつく株とつかない株とが別れている。２年成熟タイプであって，２年目の「実」と，１年目の「球果」があった。１年目では，小さい種子が１鱗片に２個ずつ対生について，半裸出の球果をなしている。マツの仲間では，この鱗片が種鱗として発達し，球果となって，種子を隠すのである。

ハイイヌガヤでは，２年目に，１球果につき１～３個の種子だけが外種皮の外層が多肉質となって発達し，仮種皮を形成する。針葉樹としては風変りなこの種子は，熟すと甘く，動物に食べられて，種子が散布される。11個測ったら，長さが16～23㎜，直径が11～14㎜あった。



内種皮は堅く，稜があり，ギンナンに似ている。葉はイチイに似ていて，仮種皮がつく点もイチイに似ているが，種子はサイズ・形態ともイチョウに似ているから，これの散布動物はイチョウの場合と同じような種類かもしれない。

（自然保護科　斎藤新一郎）